

未来につながる魅力的なまちづくり

10年後に目指すぐんまの姿

- ✓ 先進的な技術や発想で、群馬をリードする拠点が新たな「群馬の未来」を拓いています。
- ✓ 商業、医療、福祉などの生活サービスが維持され、誰もが暮らしやすい居住環境が確保されています。
- ✓ 移動の利便性が高まり、企業集積や観光地のにぎわいが増すとともに、生活サービスを利用しやすくなっています。
- ✓ こどもたちが安全に通学できる環境の整備が進み、子育て世代も安心して住めるまちになります。

10年後の姿の実現に向けた施策

人口減少と高齢化が同時に進行する局面においても、誰もが生活に必要な都市機能を持続的に享受できるよう、広域的な観点から市町村のまちづくりを支援しながら、暮らしを支え安全で快適に移動できる環境を整備し、群馬の強みを活かしたエリア価値を創造する未来投資を進めることで、誰もが地域に魅力を感じ、幸福を実感できるまちづくりを推進します。

施策 1 共創 GI

エリア価値を創造する 未来投資

- 独自性を持った先進的なリーディングプロジェクトを推進します。

空間デザインやインフラ整備等を通じて、市町村が進める未来につながるまちづくり構想の実現を支援します。



施策 2 共創

持続可能で暮らしやすい まちづくり

- 適正な土地利用と居住環境づくりで「まちのまとまり」を維持します。

誰もが生活に必要なサービスを持続的に享受できるよう、土地利用計画、市街地整備、空き家対策等を通じて、「まちのまとまり」を維持します。

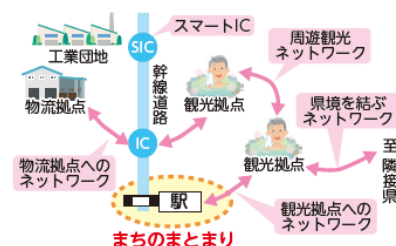


施策 3 DX

地域の暮らしや経済活動を 支えるインフラ整備

- 物流・人流を支える広域道路ネットワークの整備を進めます。

物流・人流ネットワークや都市間連携ネットワークの構築、現道拡幅等の域内道路整備により、円滑な移動環境を整備します。



施策 4 共創

誰もが安全に 移動できる環境づくり

- 安全で快適な歩道や自転車通行空間の整備を進めます。

通学路の歩道整備、中高生の通学経路等の自転車通行空間整備を優先的に進め、こどもたちの安全な通学環境を整備します。



施策1 エリア価値を創造する未来投資

取組1 個性を活かした地域のリーディングプロジェクトの推進

1 ウォーカブルなまちなかの形成

将来の具体的なまちなみや空間イメージなどの長期的なビジョンを官民で共有しながら、自家用車中心の道路を公共交通と人中心の空間に転換するなど、居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりを目指す取組を進めます。

道路空間の再構築

新技術導入を見据えて新たな道路インフラの可能性を検討するとともに、自動運転実証実験の結果を踏まえた段階的な道路空間の再構築などの検討を進めます。

【事業箇所】

- 県庁～前橋駅クリエイティブシティ構想では、令和6年度に国際コンペを実施し、都市空間デザインを決定しました。令和7年度は、最優秀作品提案者と基本設計契約を締結し、都市空間デザインの実現に向けて、設計・地元調整を進めます。

▼ 県庁～前橋駅クリエイティブシティ構想 ▼



国際コンペ最優秀作品（本町二丁目五差路交差点）

官民共創による公共空間を活用したまちづくり

官民が連携して、公共空間の新たな活用方法の検討や、沿道との一体的な活用を前提とした街路整備など、エリアへの民間投資を促すまちづくりを進めます。

【事業箇所】

- 敷島公園新水泳場整備では、敷島エリアグラウンドデザインを踏まえ、民間事業者のノウハウを活用するPFI方式で整備を進めています。令和7年度は、旧水泳場の解体準備工事、新水泳場の設計・工事を実施します。

▼ 敷島公園新水泳場整備 ▼



完成イメージ

2 デジタルクリエイティブの拠点づくり

新群馬の創造に向けた3つの近未来構想の一つである「クリエイティブの発信源」を実現するため、群馬県ではデジタル・クリエイティブ産業を新たな産業の柱にすることを目指し、クリエイターやクリエイティブ企業が活躍し続けることができる環境（エコシステム）の構築に取り組んでいます。

【事業箇所】

- 堤ヶ岡飛行場跡地活用として、令和7年度は土地利用上の関係機関調整を通じて、デジタル・クリエイティブ産業拠点の実現を支援します。

3 クリーンエネルギー産業の拠点づくり

「2050年に向けた『ぐんま5つのゼロ宣言』」における「温室効果ガス排出量『ゼロ』」を実現するため、本県の持つポテンシャルを最大限活用したクリーンエネルギーを供給・活用する拠点を県内に創出する市町村の取組を支援します。

【事業箇所】

- 吉岡町がクリーンエネルギー構想で掲げる新たな産業団地へのアクセス向上に寄与する、県道前橋伊香保線（吉岡バイパス）の事業着手に向けた検討を開始します。

4 リトリートの聖地にふさわしい公共空間づくり

新群馬の創造に向けた3つの近未来構想の一つである「リトリートの聖地」の実現に向けて、アクセス環境や道路景観の改善、景観形成の誘導、歴史的なまちなみ形成の支援など、リトリートの聖地にふさわしい公共空間づくりを市町村と連携して検討します。

政策3

TOPICS



つの新たな中心的事業

国の補助・交付金の採択に向けた各種調査に着手

- 県庁～前橋駅クリエイティブシティ構想 ▶ 基本設計 に着手予定
- 県道桐生伊勢崎線バイパス ▶ 地域ニーズの把握、測量・道路予備設計 に着手予定
- 県道前橋伊香保線（吉岡バイパス）▶ 事業着手に向けた検討 を開始します

施策2 持続可能で暮らしやすいまちづくり

取組1 適正な土地利用による「まちのまとまり」づくり

1 市街地における居住と都市機能集積の促進

駅周辺や市役所等の地域の拠点に都市機能の核となる施設の集積・誘導を図り、周辺に居住機能を誘導するため、「都市機能誘導区域・居住誘導区域」の指定を促進します。

立地適正化計画策定支援

「まちのまとまり」を維持するため、策定委員会への職員の派遣や技術的な助言等により、市町村の立地適正化計画の策定を支援します。

【事業箇所】 ※（ ）は策定完了見込み

- ・計画策定中 : 伊勢崎市 (R7)、館林市 (R7)、沼田市 (R7)、みどり市 (R7)、安中市 (R7)、大泉町 (R7)、甘楽町 (R7)
- ・計画策定着手: 桐生市 (R8)、藤岡市 (R8)、吉岡町 (R8)

2 郊外部の「まちのまとまり」を維持する計画的な土地利用

「市街化調整区域の地区計画」や特定用途制限地域などの土地利用規制を活用し、合併前旧役場周辺や既存集落等に「まちのまとまり」を維持するよう市町村を支援します。

取組2 誰もが暮らしやすい居住環境づくり

1 快適な生活空間の整備

エリアの価値と持続可能性を高めつつ、快適な居住環境を形成するため、土地区画整理事業をはじめとする市街地整備や都市公園の整備・運営管理を行います。

土地区画整理事業負担金

- 【事業箇所】
- ・伊勢崎駅周辺第一地区（伊勢崎市）ほか6地区

2 空き家対策の総合的な推進

空き家対策の推進

「群馬県空き家利活用推進協議会」を活用し、空き家対策の情報共有、市町村への情報提供・助言等を行うほか、「空き家対策セミナー」を開催します。

古民家再生・活用推進

官民共創チーム（コミンカコナイカ）を組織し、古民家の物件掘り起こしやマッチング等を行う「地域アドバイザー」を選任します。また、古民家・古材の情報データベースの更新、保守等を行います。



児童福祉施設に改修されたマッチング事例

取組3 地域の誇れる景観づくり

1 景観まちづくりの推進

景観計画の策定支援

市町村が「景観計画」を策定し、きめ細かな規制誘導方策を展開できるよう、市町村の景観行政団体への移行を支援します。

2 ぐんまの風景を魅せる施設整備と規制誘導

地域の風景や景観に配慮した施設整備

道路を走りながら、山々や街並みなどの周囲の風景を魅せるよう、景観に配慮した道路施設等の整備を検討します。また、災害時に電柱が倒壊して道路が寸断されるのを防ぐ無電柱化においても、景観形成・観光振興を推進します。

【事業箇所】

- ・国道292号 浅間・白根・志賀さわやか街道（草津町～中之条町）富岡神流線 電線共同溝（甘楽町）において、景観に配慮した道路整備を推進します。

▼ 景観に配慮した整備事例 ▼
（桐生田沼線・桐生市本町）



無電柱化事業の事例

地域の特性に応じた屋外広告物の規制誘導

観光ルート等における良好な景観形成を図り、ぐんまの魅力とブランド力を高めるため、県内の主要観光ルートや高速道路等のIC周辺道路の沿道地域等において、景観誘導地域を指定し、地域の特性に応じた屋外広告物の規制誘導を推進します。

【事業箇所】

- ・渡良瀬幹線道路沿道にふさわしい景観形成を図るため、県及び沿道3市が連携して、屋外広告物の規制誘導を検討します。

▼ 屋外広告物の規制誘導事例 ▼



上信自動車道景観誘導地域

施策3 地域の暮らしや経済活動を支えるインフラ整備

取組1 経済活動を支える物流・人流ネットワークの構築

1 物流の効率化と観光振興を支える道路ネットワークの整備・強化

物流の効率化による産業の発展や観光地の周遊性向上による観光振興などを図るため、スマートICへのアクセス性向上など、ストック効果を明確にした上で、将来を見据えた道路整備を推進します。

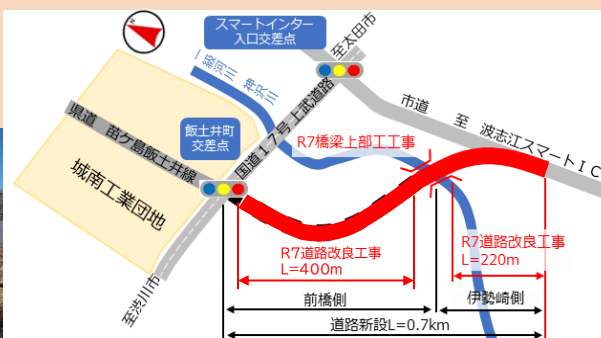
【事業箇所】

- ・県道苗ヶ島飯土井線 波志江スマートICアクセス（前橋市～伊勢崎市）ほか4路線において、バイパス整備などを推進します。

事業の一例

▼ 県道苗ヶ島飯土井線 波志江スマートICアクセス ▼

令和7年度は、橋梁工事、道路改良工事を推進します。



2 スマートICの整備・強化

より効率的な物流の実現による生産性の向上や、交流人口の拡大による観光振興を図るため、市町村と連携して、館林北スマートICなどの整備・機能強化に向けた検討を行います。

3 隣接県とのネットワークの整備・強化

広域的な地域間交流の促進による産業や観光の新たな需要の創出、広域的な物流の効率化に対応するため、周辺都県の道路整備の状況や計画を踏まえ、隣接県へのアクセス強化を推進します。

4 自転車通行空間のネットワーク化

利根川自転車道を核としたサイクルツーリズム拡大に向けて他都県との連携を図ります。また、ナショナルサイクルルートの指定に向けて、関係者との連携を図りながら、モデルルートの登録に向けた検討を行います。

取組2 「まちのまとまり」をつなぐ都市間連携ネットワークの構築

都市間連携を強化する道路ネットワークの構築

生活に必要な都市機能を相互で補完するため、市町村間を連携し、交流機能を強化する道路ネットワークの整備を推進します。

【事業箇所】

- ・（都）前橋長瀬線 高崎工区（高崎市）ほか2路線において、現道拡幅などを推進します。

事業の一例

▼（都）前橋長瀬線 高崎工区 ▼

道路が狭く渋滞が発生し、歩道がない区間では、歩行者の通行に危険が生じています。



整備前の状況

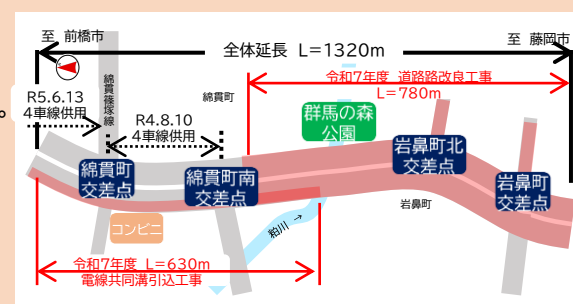
車線数を増やし、渋滞を解消することで、円滑な交通を確保します。歩道を設け、安全な通行空間を確保します。



整備後のイメージ

進捗状況

令和7年度は、引き続き、道路改良工事を進めるとともに、電線共同溝の民地への引込管工事に着手します。



取組3 地域の暮らしを支える域内道路整備

1 渋滞やすれ違い困難を解消する道路整備

現道拡幅

安全で快適な移動ができるよう、道路を拡幅することで通行車両のすれ違いを容易にするための道路整備を推進します。

▼ 国道406号 大戸工区 ▼



現道拡幅の整備状況

【事業箇所】

- ・ 国道406号 大戸工区（東吾妻町）ほか7路線の現道拡幅を実施します。

交差点改良

渋滞を解消するため、交差点へ右折レーンを設置する交差点改良を推進します。

【事業箇所】

- ・ 県道太田大間々線 阿左美岩宿交差点 ほか4箇所の交差点改良を実施します。
- ・ 東毛広域幹線道路 綿貫町北交差点 の補助・交付金化に向けた事前調査を実施します。

事業の一例

▼ 県道太田大間々線 阿左美岩宿交差点 ▼

3つの交差点が連続し、右折待ちの車両により渋滞が発生しており、円滑な交通に支障となっています。

阿左美岩宿交差点に右折車線を設置することで、渋滞を緩和し、円滑な交通を確保します。



整備前の状況



完了区間状況

進捗状況

令和7年度は事業用地の用地調査及び用地取得を行う。

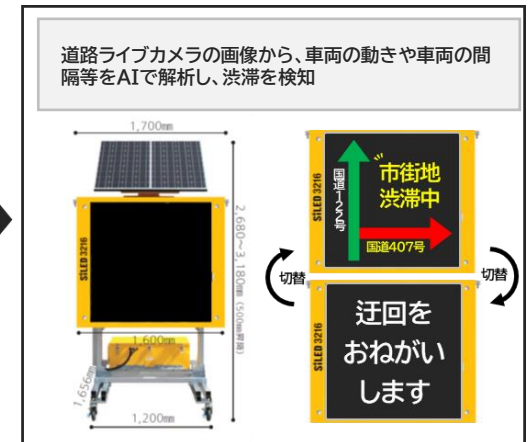
2 デジタル技術を活用した道路交通マネジメント

R7年度は、太田市街地に設置された道路ライブカメラの画像をAI解析することで検知した渋滞状況を、電光掲示板（デジタルサイネージ）を用いてリアルタイムで道路利用者に提供することで、市街地を目的地としていない車両に迂回を促し、中心市街地の渋滞緩和を図る実証実験を実施します。

○ 渋滞検知イメージ



○ 渋滞情報提供イメージ



Column

▶ 時間短縮だけではない道路整備の多様な効果

国土交通省の社会資本整備審議会道路分科会 第65回国土幹線道路部会により「令和6年能登半島地震を踏まえた緊急提言」が公表され、地域安全保障のエッセンシャルネットワークの早期確立等と併せて、道路整備の「多様な価値に対応した評価」の必要性が指摘されています。

道路整備の費用便益分析では、便益として走行時間短縮便益等の3便益を計上していますが、このほかにも多様な投資効果を評価している例があります。

これまでの費用便益分析

- ・ 走行時間短縮便益
- ・ 走行経費減少便益
- ・ 交通事故減少便益

これからの多様な効果の検証

- ・ 時間信頼性向上効果
- ・ Co2排出削減効果
- ・ 救急医療アクセス向上の効果など

施策4 誰もが安全に移動できる環境づくり

取組1 こどもたちが安心して通学できる環境づくり

1 関係者と連携した通学路合同点検や 交通誘導員活動支援

学校や警察等の関係機関や地域住民と連携し、利用実態を踏まえた通学路の合同点検を行います。また、こどもたちが安全に登下校できるよう、交通指導員の活動費の一部を補助するなどして活動を支援します。

▼ 交通誘導員活動支援 ▼



2 通学路等の歩道整備

通学路においては、合同点検結果を踏まえ、重点的に歩道整備を実施します。歩行者優先の考えのもと、歩行者の移動空間と自動車との分離を図ることで、接触の危険を排除し、安全な歩行空間へ改善していきます。

【事業箇所】

- ・(都)赤城山線(前橋市)、県道井野停車場線 井野町工区(高崎市)ほか32箇所の歩道整備を実施予定

歩道整備事業の一例

▼ 県道井野停車場線 井野町工区 ▼

歩道が無く、歩行者は路肩を歩くため、交通事故のおそれがあります。



整備前の状況

歩道を整備することで、歩行者の安全な通行空間を確保します。



完了区間状況

進捗状況

令和7年度は用地取得、埋蔵文化財調査、歩道整備(一部区間)を実施します。

取組2 中高生が安心して通学できる環境づくり

1 自転車通行空間の整備や注意喚起看板の設置

自転車通行空間の整備

中高生が自転車通学経路を安全に通学できるよう、自転車専用通行帯や矢羽根型路面表示を整備します。

【事業箇所】

- ・県道高崎渋川線ほか8路線で、自転車通行空間の整備を実施予定

▼ 県道井野停車場線 ▼



矢羽根型路面表示の整備状況

注意喚起看板の設置

自動車ドライバーや自転車利用者に向けて、自転車事故多発箇所に注意喚起看板を設置し、この効果検証を踏まえて、さらに効果的な対策の検討を行います。

2 ヘルメットの着用促進や交通安全教育の実施

県職員による自転車活用推進啓発チーム「GMET」による啓発活動やSNSを活用した情報発信等を通じ、ヘルメットの着用や自転車保険の加入促進を図ります。また、自転車を利用した参加・体験・実践型の交通安全教育手法を積極的に活用します。

【事業箇所】

- ・「出会い頭防止プロジェクト」として、メディアプロモーションのCM動画作成や、キャラバン隊による街頭活動等を実施予定

取組3 高齢者が安心して外出できる環境づくり

交通安全教育等の意識啓発

交通安全教育等の意識啓発や反射材の普及促進など夜間歩行中の視認性向上に取り組めます。また、運転免許証を自主的に返納しやすい環境づくりに取り組めます。

【事業箇所】

- ・歩行者対策として、県内の各警察署管内で、反射シール約1万枚を配布予定
- ・運転車対策として、先進安全自動車の体験乗車や運転適性検査等を取り入れた交通安全教育「高齢運転者ミーティング」を県内16警察署管内で実施予定
- ・運転免許証自主返納サポート事業として、自主返納の支援事業を行う市町村や事業者、企業、団体等の情報を県ホームページに掲載(市町村実施事業33件、事業所等実施事業43件)